

作成日 1993年03月31日

改訂日 2022年06月01日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称（製品名）	:	液体苛性ソーダ
会社名	:	株式会社 カネカ
住所	:	大阪市北区中之島 2-3-18
担当部門	:	大阪本社 Vinyls and Chlor-Alkali Solutions Vehicle R&B・Technology グループ Technology チーム
担当者（作成者）	:	Technology チームリーダー
電話番号	:	06-6226-5356
FAX 番号	:	06-6226-5345
最新 SDS 掲載 URL	:	https://www.pvc.kaneka.co.jp/ こちらから SDS ダウンロードページへお入りください
メールアドレス	:	kasei-hinshitsu@kaneka.co.jp
緊急連絡先	:	高砂工業所 化成製造部電解課管理室
緊急連絡先電話番号	:	050-3181-4500
推奨用途	:	人絹・スフ・セロハン・合成繊維等の製造、染料中間物・香料・医薬品等の製造、油脂の製造、石鹼等の製造、各種ソーダ塩類の製造、水の軟化剤、アルカリ蓄電池の電解液、化粧品原料等

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類
物理化学的危険性

爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液	区分に該当しない
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	区分に該当しない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	区分 1
鈍性化爆発物	区分に該当しない

健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分3	
	急性毒性（経皮）	分類できない	
	急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない	
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない	
	皮膚腐食性／刺激性	区分1	
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1	
	呼吸器感作性	分類できない	
	皮膚感作性	区分に該当しない	
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない	
	発がん性	分類できない	
	生殖毒性	分類できない	
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器）	
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない	
	誤えん有害性	分類できない	
	環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分3
		水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
オゾン層への有害性		分類できない	

GHS ラベル要素

区絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 金属腐食のおそれ
飲み込むと有毒
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
臓器の障害（呼吸器）
水生生物に有害

注意書き :

安全対策(予防策) 使用前に本 SDS を読み、理解するまで取り扱わないこと。
他の容器に移し替えないこと。
ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。
この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置(対応策) 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

眼に入った場合：水で15分間以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣服を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

以上の場合、直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

物的被害を防止するため、流出したものを吸収すること。

保管（貯蔵）

耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

施錠して保管すること。

廃棄

内容物／容器を、国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性

： 情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

： 眼、皮膚等の生体組織に強い腐食性を持つ。

タンパク質を分解する作用があり、付着したものを完全に除かない限り、次第に組織の深部に及ぶおそれがある。特に眼に入ると視力の低下や失明をすることがある。希薄溶液でも繰り返し接触していると皮膚表面の種々の組織を侵し、直接刺激性の皮膚炎又は慢性湿疹の症状を呈する。濃度が濃い場合には、急激に局部を腐食する。ミストを吸入すると気道の刺激症状がある。誤って飲み込んだときには、口腔、喉、食道、胃などに炎症を起こす。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : 水酸化ナトリウム | 水

慣用名又は別名 : 苛性ソーダ |

化学特性（化学式等） : NaOH | H₂O

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS登録番号 : 1310-73-2 | 7732-18-5

濃度又は濃度範囲（含有量）

: 20% ~ 50% | 50% ~ 80%

官報公示整理番号（化審法・安衛法）

: (1)-410 | 該当しない

GHS分類に寄与する成分（不純物及び安定化添加物）

: 特になし

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。必要であれば、衣類を切断する。製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら洗浄する。石鹼を使ってよく落とす。直ちに医療措置を受ける手配をする。医師の指示なく、油類その他の薬を薬傷部に塗ってはならない。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で15分間以上洗眼する。その際は瞼を開き水が全面にゆきわたるように行う。眼球を傷つける可能性があるため、眼をこすったり固く閉じさせてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。コンタクトレンズを使用の場合、固着していない限り取り除いて洗浄する。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

- : 吸入、接触量が多いほど腐食性の症状は急激である。肺水腫等の症状は遅れて発現する場合がある。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

- : 汚染された衣類や保護具を取り除く。救助者が有害物に触れないよう手袋を使用するなど注意する。誤飲及び吸入の被災者に人工呼吸をする場合には口対口法を用いてはいけない。逆流防止バルブのついたポケットマスクや医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。

医師に対する特別な注意事項 d

- : 「重要な徴候及び想定される非常事態の概要」を参照。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : この製品自体は、燃焼しない。
周辺火災に応じて、粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素（炭酸ガス）、砂を用いる。
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし。
- 火災時の特有の危険有害性 : 不燃性であるが、加熱されると腐食性及び毒性のヒュームを発生する恐れがある。水に接触すると、可燃性物質の発火に十分な熱を発生する。
- 特有の消火方法 : 消火作業は、風上から行う。
速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能の場合は、容器及び周辺に散水して冷却し、容器の破壊を防ぐ。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

- : 消火活動では、耐熱手袋、ゴーグル型保護眼鏡、空気呼吸器を着用する。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- : 漏出時の処理を行う場合には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等を着用すること。
漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立入りを禁止する。
作業は風上から、保護具を着用して行う。

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

: 少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させることにより、出来るだけ密閉できる空容器に回収する。

本製品は強アルカリなので、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。必要があればさらに希塩酸、希硫酸などで中和する。

処理後の土砂等については、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

二次災害の防止策

: 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への混入を防ぐ。

中和時、苛性ソーダ液に多量の水や酸を添加する場合、突沸を生じる危険性があるので、十分注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

: 取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。取扱い後は、手、顔などを良く洗い、うがいをする。

取扱う場合は、局所排気内、または全体換気のある場所で取扱う。

安全取扱注意事項

: 漏れ、溢れ、飛散等しないように慎重に取り扱う。

苛性ソーダ液に多量の水や酸を添加する場合、突沸を生じる危険性があるので、十分注意する。

接触回避

: 強アルカリなので、酸性物質との接触を避ける。

アルミニウム、錫、亜鉛等の金属を腐食し、水素ガスを発生する。

衛生対策

: 作業後、手をよく洗い、うがいをしてから飲食等をする。

保管

安全な保管条件

: 気温の低下により凝固の可能性がある。

毒物劇物取締法の「毒物及び劇物の貯蔵に関する構造・設備等基準」に従い、貯蔵する。

通気をよくし、蒸気が滞留しないようにする。

強アルカリなので、酸性物質とは同一場所に保管しない。

安全な容器包装材料

: 軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレスまたはポリエチレン容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

管理濃度

: 設定されていない。¹⁾

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産業衛生学会(2020年版) : 最大許容濃度 2 mg/m³ ²⁾

ACGIH(2021年版) : STEL 2 mg/m³ (天井値) ³⁾

設備対策

: 近くに手洗い、洗眼、シャワーなどの設備を設ける。

取り扱い場所は換気を良くする。

保護具

呼吸用保護具	: 防塵マスク、空気呼吸器
手の保護具	: ゴム製保護手袋
眼、顔面の保護具	: 保護メガネ（ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具	: ビニール製保護衣、ゴム製保護長靴
特別な注意事項	: 作業後、手をよく洗い、うがいをしてから飲食等をする。

9. 物理的及び化学的性質⁴⁾

物理状態	: 液体
色	: 無色又は灰色
臭い	: 無臭
融点／凝固点	: 約 8°C（48%液体）
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 138°C（48%液体）
可燃性	: 不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: なし
引火点	: なし
自然発火点	: なし
分解温度	: データなし
pH	: 14（1mol/L）
動粘性率	: 47 mm ² /s（45%液体/20°C）
溶解度	: 苛性ソーダ固体として、42 g/100 g（0°C）、109 g/100 g（20°C）
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	: データなし
蒸気圧	: 432 Pa（20°C、45%液体）
密度及び／又は相対密度	: 1.50（48%液体）、1.48（45%液体）
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし
その他のデータ	: 液体であるが、濃度、温度により凝固することあり

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常取り扱い条件では安定である。
化学的安定性	: 空気中の炭酸ガスを吸収して、炭酸ナトリウムを生成することがある。
危険有害反応可能性	: アルカリ性なので、酸と反応し発熱する。 アルミニウム、錫、亜鉛等の金属を侵し水素を発生しこれが空気と混合して引火爆発することがある。
避けるべき条件	: 水、湿った空気、混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 酸化剤、強酸、錫、亜鉛、アルミニウム及びこれらの合金
危険有害な分解生成物	: 特になし。
その他	: 多量の水や酸との反応で発熱の可能性が有る。

1 1. 有害性情報

急性毒性

経口 : 経口 ウサギ LD₅₀ 325 mg/kg (固体苛性ソーダ)⁵⁾
 ヒトでの中毒事例より、ヒトの体重を 60kg とすると致死量は 80mg/kg～167mg/kg (固体苛性ソーダ) となるため、区分 3 と判断される。⁵⁾
 水溶液製品である本品に対しては、つなぎの原則 (GHS 文書 3.1.3.5) を適用し、固体苛性ソーダと同じく区分 3 とした。

経皮 : 情報なし

吸入：気体 : 情報なし

吸入：蒸気 : 情報なし

吸入：粉じん : 情報なし

吸入：ミスト : 情報なし

皮膚腐食性／刺激性 : ヒト皮膚に対して 0.5% 以上で刺激性を引き起こす。⁵⁾
 ブタ皮膚に対し 8% 以上で腐食性を引き起こす。⁵⁾
 ウサギ皮膚に対して 5% 4 時間で重度の壊死を引き起こす。⁶⁾
 以上の知見に基づき、区分 1 とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

: ヒト眼に対して重篤な損傷を引き起こす。⁶⁾
 ウサギ眼に対して 1.2% 以上で腐食性を引き起こす。⁵⁾
 以上の知見に基づき、区分 1 とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

: 呼吸器感作性 情報なし
 : 皮膚感作性 ヒト皮膚での感作性試験において感作性は認められなかった。⁵⁾

生殖細胞変異原性 : *in vivo* マウス骨髄小核試験 陰性⁵⁾
 AMES 試験 陰性⁵⁾

発がん性 : 情報なし

生殖毒性 : 情報なし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

: ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こす。⁵⁾
 呼吸器の障害を引き起こす。
 以上の知見に基づき、区分 1 とした。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

: 情報なし

誤えん有害性 : 情報なし

その他 : 特になし

1 2. 環境影響状況

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

: 魚類 (カダヤシ) LC₅₀ (96h)=125mg/L⁵⁾
 甲殻類 (ネコゼミジンコ) EC₅₀ (48h)=40.4mg/L⁵⁾

以上の知見に基づき、区分3とした。

水生環境有害性 長期(慢性)

: 水溶液が強塩基となることが毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和されるため、区分に該当しないとした。

残留性・分解性 : 情報なし

生体蓄積性 : 情報なし

土壌中の移動性 : 情報なし

オゾン層への有害性 : 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

他の有害影響 : 強アルカリのため、漏えい時は周辺環境への影響あり (pH上昇等)

1.3. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

化学品(残余廃棄物) : 「7 取扱い及び保管上の注意」の項による他、水質汚濁防止法の『有害物質』並びに廃棄物の処理及び清掃に関する法律の『特別管理産業廃棄物』に該当するため、これらの関係法令に従って適正に処理する。また、各地域の条例等で廃棄に関する規定がある場合はこれに従う。本製品を含む廃液及び洗浄廃水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは違法であり、絶対に行ってはならない。都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。処理等を外部の業者に委託する場合は、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に危険性及び有害性を十分告知の上、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して委託し、関係法令を遵守して適正に処理する。廃アルカリは特別管理産業廃棄物に指定されており、収集・運搬・処分は定められた基準に従って処理する。

汚染容器及び包装 : 使用済み包装容器は内容物を完全に除去した後、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

1.4. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送規制 (IMO)

UN No. : UN1824

Proper Shipping Name : SODIUM HYDROXIDE SOLUTION

Class : 8

Packing group : II

Marine pollutant : Not applicable

Transport in bulk according to Annex II of MARPOL 73/78 and the IBC Code : Applicable (Y)

航空輸送規制 (ICAO/IATA)

UN No. : UN1824

Proper Shipping Name : SODIUM HYDROXIDE SOLUTION

Class	: 8
Packing group	: II
国内規制	
陸上輸送規制	: 毒物及び劇物取締法の規定に従う。 道路法の規定に従う。
海上輸送規制	: 船舶安全法の規定に従う。
国連番号	: UN182
品名	: 水酸化ナトリウム (液体)
国連分類	: クラス 8 (腐食性物質)
容器等級	: II
海洋汚染物質	: 非該当
航空輸送規制	: 航空法の規定に従う。
国連番号	: UN1824
品名	: 水酸化ナトリウム (液体)
国連分類	: クラス 8 (腐食性物質)
容器等級	: II
輸送又は輸送手段に関する特別な安全対策	: 車両による運搬時は、運転者に必ずイエローカードを携行させる。 輸送作業は取り扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。 毒物及び劇物取締法に定められた事項を順守する。
緊急時応急措置指針番号	: 154 毒性物質／腐食性物質 (不燃性) ⁷⁾

1 5. 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 劇物 (法第 2 条別表第 2) 「水酸化ナトリウム及びこれを含有する製剤 (水酸化ナトリウム 5% 以下のものを除く。) で液状のもの。」
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律	: 有害液体物質 (Y 類物質) (溶液) (施行令別表第 1)
船舶安全法	: 腐食性物質 (危規則 第 2, 3 条危険物 告示別表第 1)
港則法	: 腐食性物質 (施行規則第 12 条 危険物の種類を定める告示 別表)
航空法	: 腐食性物質 (施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)
道路法	: 車両の通行の制限 (施行令第 19 条の 13)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 特別管理産業廃棄物 (施行令第 2 条の 4)
有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律	: 有害物質 (施行規則第 2 条)
労働基準法	: 疾病化学物質 (法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条 別表第 1 の 2 第 4 号 1)
水質汚濁防止法	: 指定物質 (法第 2 条第 4 項、施行令第 3 条の 3)
労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 57 条) 政令番号 319 「水酸化ナトリウム」 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2)

	政令番号 319 「水酸化ナトリウム」
	化学物質等の危険性又は有害性の調査（リスクアセスメントの実施等） （法第 57 条の 3）政令番号 319
	腐食性液体（施行規則第 326 条）
水道法	: 有害物質（法第 4 条第 2 項、水質基準平 15 省令 101）
食品衛生法	: 人の健康を損なう恐れのない添加物に該当（施行規則別表第 1） 指定添加物（用途：製造用剤）（食品添加物用途のみ該当）
医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律	: 劇薬（日本薬局方品のみ該当） （法第 44 条第 2 項、施行規則第 204 条表第 3）
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項（キャッチオール規制）
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR 法）	: 指定化学物質に該当しない。

16. その他の情報

引用文献

- 1) 作業環境評価基準（昭和 63 年労働省告示第 79 号）平成 16 年 10 月 1 日改正
- 2) 産業衛生学雑誌 vol. 62 (2020)
- 3) ACGIH, TLVs and BEIs Based on the Documentation of the Threshold Limit Values for Chemical Substances and Physical Agents & Biological Exposure Indices (2021)
- 4) 無機化学ハンドブック（技報堂）、化学便覧（日本化学会編）
- 5) Screening Information Data Set (2002)
- 6) Patty's Toxicology 5th (2001)
- 7) 緊急時応急措置指針（ERG2020 版）（一社）日本化学工業協会編（2021）

注意

記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。

危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので、取扱いには十分注意してください。

最新の SDS は、1. 項に記載されている URL より、入手願います。尚、適宜当該ホームページを閲覧し、更新の有無につき確認願います。

記載内容の問い合わせ先

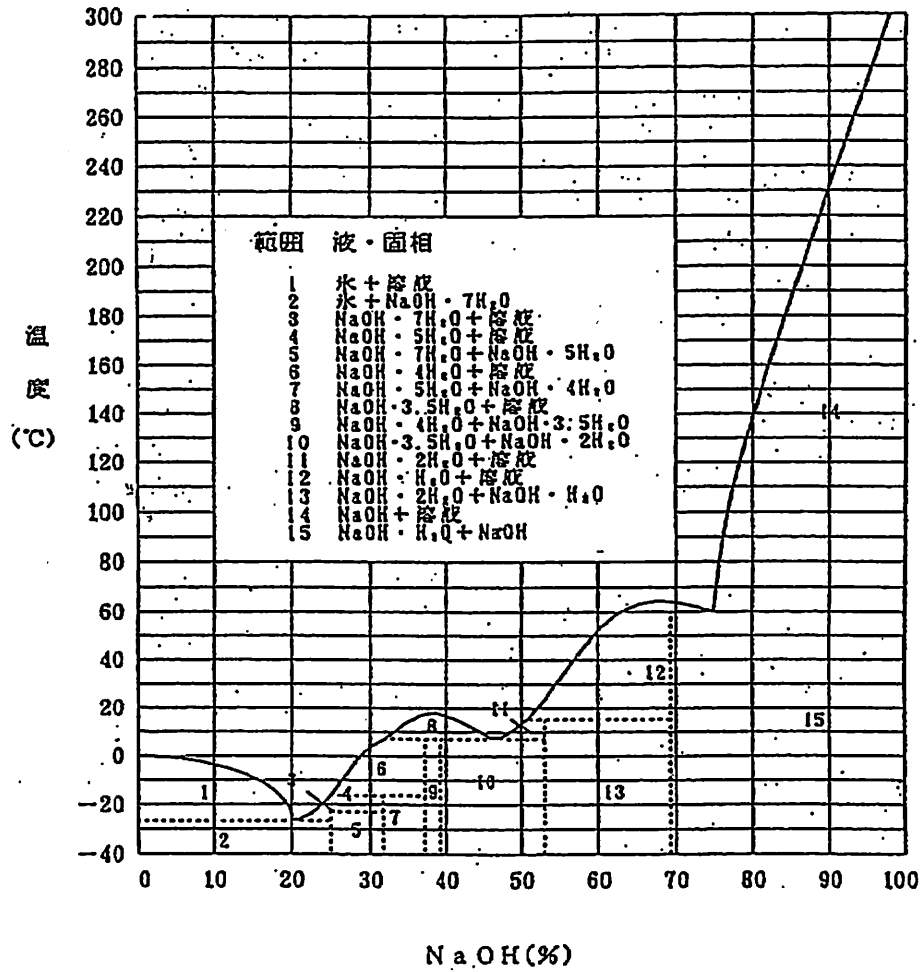
前記、担当部門と同じ。

改訂版の記録	:	初版作成	平成05(1993)年 03月 31日
		第1回改訂版	平成07(1995)年 06月 26日
		第2回改訂版	平成10(1998)年 08月 01日
		第3回改訂版	平成12(2000)年 02月 25日
		第4回改訂版の1	平成12(2000)年 04月 25日
		第4回改訂版の2	平成14(2002)年 01月 25日
		第5回改訂版	平成15(2003)年 11月 20日
		第6回改訂版	平成16(2004)年 09月 01日

第7回改訂版	平成19(2007)年	05月	16日
第8回改訂版	平成20(2008)年	03月	31日
第9回改訂版	平成23(2011)年	08月	05日
第10回改訂版	平成25(2013)年	01月	07日
第11回改訂版	平成29(2017)年	09月	12日
第12回改訂版	平成30(2018)年	07月	03日
第13回改訂版	平成31(2019)年	04月	01日
第14回改訂版	令和04(2022)年	03月	25日
第15回改訂版	令和04(2022)年	06月	01日

凝固点添付図

カセインソーダの状態図



※実線以下の温度では凝固する

出典 Pittsburg Plate Glass Company, Columbia Chemical Division
 Columbia Caustic soda (NaOH), p. 52 (1950入手)
 International Critical Table, 4, p. 235